



山西小学校便り

# 山西っ子

《なかよく・かしこく・たくましく》



「こんにちは。」給食当番の子たち同士が廊下ですれ違う際に、あいさつを交わす様子です。

令和3年1月22日（金）no.43 文責：上田

## レジリエンスを高める

“レジリエンス”って?と思われた方も多いかと思います。レジリエンスとは、困難からの回復力、前向きさなど、人がしなやかに生き抜く力と言えるものです。子どもたちに限らず、私たちは日々予期せぬ出来事に出会います。熊本地震で被災したことも、現在のコロナ禍で生活を一変したことも、生きていく上で乗り越えなくてはならない出来事です。地震や感染症のように社会全体で解決に向けた努力を要することもあります。日々、何らかの課題に向き合い、課題の解決に努力を続けます。子どもたちの友達とのトラブルにおいても同様で、トラブルを通して新たな関係づくりにレジリエンスを働かせています。

さて、次のような問いかけを子どもたちにします。

ある朝、Aさんは同じクラスのBさんに「おはよう」と声をかけた。

しかし、返事もなく、Bさんは行ってしまった。

・・・あなたがAさんならどう感じますか？

回答として「無視されたのかな?」など、否定的なことを多くの子が口にします。「Bさんと何かあったんじゃないか」「Bさんに何かしたのかな」と、マイナスの発想にしばられていく子もいます。話し合いを続けると、「あいさつが聞こえなかったんじゃないか」「(出かけに親から叱られたりして)機嫌がよくなかったんじゃないか」「気になるなら、Bさんにもう一度声をかけてみたらどうかな」と、子どもたちはいろんな受け止め方や考え方に気付いていきます。このようにレジリエンスを働かせるには一つの考え方に捉われないことが大切です。

ところで、コロナ感染症の拡大、緊急事態宣言が発出されている現在、いろいろな考え方をすることは大事ですが、極端な考え方には気をつけなくてはなりません。「自分は感染しない。」と明るく考えすぎたり、逆に「もうおしまいだ」と不安になりすぎたりしてもいけません。レジリエンスで大切なことのもう一つは、偏った考え方になっていないかを確認することです。自分にはそんなことはおこらないという「正常性バイアス」にも注意しなくてはなりません。

学校では、子どもたちの気持ちを受け止めながら、レジリエンスを高めることも指導として取り組んでいかななくてはならないと考えています。子どもたちの会話を聞いていると、時として「めんどくさい」「どうせダメだ」など、否定的なマイナスの気持ちを表す言葉を発する子もします。「やってみよう」「失敗も勉強だ」「いいチャンスだ」と前向きな言葉を発することを大切にしてほしいと考えています。いかがでしょうか。家庭でも子どものマイナスな発言をプラスに捉え直してみるように促していただくことも大切だと思います。

本校では、「廊下は歩こう」と先生方が子どもに声かけする場面があります。廊下を走ってしまったことだけを注意するのではなく、自分の行動を振り返り、正しい行動を身につけてほしいと考えて指導しています。